



川口 省子

高齢者の居場所づくり ～社会参加で心身ともに 健康寿命の延伸を～

問 参加者が減少傾向にあるいきいき百歳体操の今後の方策について問う。

答 新規利用者を増やしている事例など参考に、地域の皆様と一緒に考えていきたい。

問 高齢者だけではなく、健康づくりのため全世代誰でも参加できることを周知してはどうか。

答 周知について工夫をしていきたい。

問 オレンジカフェの今後の展開について問う。

答 現在3か所で開催。更に多くの地域で立ち上げられるよう支援していきたい。

問 カフェへの参加と開設を促す両面についての周知が必要ではないか。

答 オレンジカフェの趣旨や開催場所、開設のための助成金制度など広く周知するように改めていきたい。

問 広く展開されるようになった時には、オレンジカフェマップの作成をお願いしたい。

答 参考らせてもらう。

問 保健福祉センターでの対応を検討中である。

答 人と会う、また出かけることは健康寿命の延伸には欠かせない。そのためにも乗合タクシーの更なる利便性の向上、停留所の追加はできないものか。



問 一人暮らしの方の見守り事業、緊急通報装置は現在固定電話回線仕様だが、今後固定電話を持たない方の対応が必要になるのではないか。

答 現在約500m間隔で押さえている停留所を増やすことはできないが、停留所の移動等あれば相談してもらいたい。



八木 修

① 町政運営 ② 防災対策

問 公約をどのように認識しているか問う。

答 住民との重要な約束であり、任期中に着実に実行する。

問 人口減少について問う。

答 働くところがない、店舗や医療施設がなく生活に便利が悪い、通勤通学に便利が悪いと認識している。

問 米騒動を受け農業振興について認識を問う。

答 農業に初めて日が当たり、農業を担う者を支援するとともに、持続的で増産を担える法人化に取り組む。

問 公約にはない産業誘致の用地計画を問う。

答 地域活性化は魅力あるまちづくりの一環で、10年先を見据えた継続事業。製造業を中心に誘致し、技術継承や長期雇用が考えられる。

問 避難所の空調対策を問う。

答 13か所のうち6か所は空調が完備。7か所は冷風機等対応。

問 福祉マップを改定したが、どのような傾向かを問う。

答 町が避難行動要支援者名簿を作成したが、要支援者のうち独居の方が増加傾向にある。

問 2018年の西日本豪雨での被害状況を問う。

答 避難所6か所開設し、896名が避難。被害件数は768件。

被害件数768件の内訳は、住宅60棟、非住宅20棟、土木被害490か所、農林被害198か所。

避難所	6カ所開設		
避難者数	896名		
被害件数 768件	{	住宅被害	60棟
		非住宅被害	20棟
		土木被害	490か所
		農林被害	198か所